



研究成果

イチゴ新品種「阿波ほうべに」の育成

【はじめに】

子どもに人気で、ケーキやスイーツに欠かせないイチゴ。徳島県の促成イチゴは約90haで栽培されており、施設園芸の中で栽培面積、販売金額ともに県内トップのブランド品目である。

本県の主力品種「さちのか」は、果実が硬く良食味であるが、販売単価の高い年内収量が少ない。このため、生産者から年内から多収穫が可能な県オリジナル品種の開発が強く望まれていた。

そこで、2008年度から研究に着手し、この度、新品種「阿波ほうべに」を育成したので、その概要を紹介する（図1）。

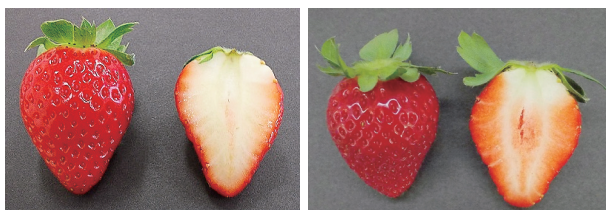


図1 「阿波ほうべに」 「さちのか」

【育成経過】

2008年度から「さちのか」、「かおり野」、「カレンベリー」、本県育成品種「めぐみ」を交配親にしてできた優良系統について、生産力検定による新品種候補の絞り込みを行った。

本品種は2012年度に実が硬く良食味の「さちのか」を子房親(♀)、早生で多収性・炭そ病抵抗性を持つ「かおり野」を花粉親(♂)として交配した。その後代約200系統について2013～2014年度に選抜試験、2014～2015年度に栽培特性試験及び現地栽培試験を行い、有望品種と認めた。

この品種の特徴ともなっている『豊かな収量で鮮やかな紅色のイチゴ』をイメージし、「阿波ほうべに」と命名、2016年12月に農林水産省へ品種登録出願を行った。

【「阿波ほうべに」の特性】

(1) 草姿

草姿は立性で、草勢は「さちのか」よりやや強い。草高は「さちのか」より高く、葉は「さちのか」よりやや大きい(表1)。

(2) 形状、果実色

果皮色は鮮やかな赤で、果肉は淡桃、果心は白い。果実の平均果重は約20g以上で「さちのか」より大果である。

(3) 収穫開始時期

11月下旬から12月上旬より収穫が可能で、「さちのか」より約10～20日早い(表2)。

(4) 収量

年内収量は「さちのか」の約2倍で、栽培期間中の総収量は約30%多収である(表2)。

(5) 食味、品質

糖度は10～11度で、「さちのか」と同程度である。果実の硬度は栽培期間を通して「さちのか」より硬く、流通性に優れる(表2)。

表1 生育調査 (2015年度)

系統名	草高(cm)	葉へい長(cm)	葉長(cm)	葉幅(cm)
阿波ほうべに	21.0	12.2	11.5	9.3
さちのか	11.5	8.8	6.5	7.2

表2 果実特性 (2015年度)

系統名	収穫始め	年内収量(kg/10a)	収量 ^{注1)} (kg/10a)	平均果重 ^{注1)} (g)	糖度 ^{注2)} (brix)	酸度 ^{注2)} (%)	果実硬度 ^{注2)} (g)
阿波ほうべに	12月5日	910	5,139	22.8	10.7	0.70	318
さちのか	12月14日	357	4,047	17.3	10.7	0.57	249

注1) 収量、平均果重は4月末までの可販果

注2) 糖度、酸度、果実硬度は頂果房と腋果房の平均

【おわりに】

今後、「阿波ほうべに」を将来的に、本県促成イチゴの主要品種となるよう普及に努めていきたい。

(農産園芸研究課 野菜・花き担当 脇坂 昌子)